

- 2018年・記録会は 9月16日(日)HLG-B、PLGともグリーンパークです。
- 2018年・記録会は 10月21日(日)HLG、PLGとも吉見公園です。

暑かった夏も終わって秋になります。80才は「地雷原」なんて書きましたが、小生を含めて周囲では実際にそれが起こっています。大病を患って体力が衰えた現在、倅や女房がこれまで以上に、いろいろと面倒を見てくれるのは真に有り難い。それと80才になると周りがこれまでと違って変化して見えるんですね。高齢化社会なのに80才以上が意外と少ない事の驚きと、体力が衰えて1日中ゴロゴロしていることが多くなり、これで良いのかと言う不安です。80才はまさに「地雷原」突入で、これまで懲りずに一緒に遊んでくれていた怪鳥他の元気さが遠く離れて輝いて見えます。いやー、とうとう80才なんですね。これまでより身を引き締めて、慎重に行動しますので、よろしく。

- 記録報告 ①② 2018/7月HLG/PLG記録報告 ③④ 2018/8月HLG/PLG記録報告、  
 お知らせ ⑤ 松茸大会案内、 ⑥ 秋季FF小型機旭大会案内  
 ⑦ 昭和30年FF日本選手権大会案内  
 雑談天国 ⑪ 皇室あれこれ  
 ざつがき ⑫

## ◆2018年7月記録会報告(HLG/PLG)

### 7月HLG記録会報告

①……赤星、

日曜日はグリーンパークでランチャーズ7月記録会でした。8時に公園に到着。既に気温は30℃をゆうに超えています。さて、すぐに準備をして、まずはオーバーハンド機を飛ばします。が、相変わらず、投げ手がダメ。突っ立ったりスッぽ抜けたり。早々に諦めることにします。次はSAL機。現在、使えるB-SAL機は3機。順番に飛ばして調子を見ます。記録会では、5・6月にも飛ばした機体を使います。気温がグングン上がるなか、風は0.5～1m/s。風向きはコロコロと変わって一定しません。

記録会が始まってしばらくは皆さん低調な出だし。いつものように、ONYANCANさんが先行します。

私はサーマル読みが全く当たらず、5投連続でMAXならず。もう1つも落とせません。開き直ってここから3つ連続でMAXをとりますが、9投目で力尽きました。結局、10投目も落として3MAX。3等賞でした。優勝は中盤の4連続MAXで見事逆転をした野球投げの雄、IK田さん。おめでとうございませう。2等賞は途中、ちょっとしたハプニングのあったONYANCANさん。いやー、暑かった。

サーマルが読めなかったのもそうですが、グリーンパークは狭いので、入ったと思ってもすぐに外れてしまいます。サーマルが小さかったのか、入ったと思った機体が、縁に蹴られて急に落とされることがしばしば。もっと気流読みが上手にならないとダメなのですね。

追記: 平尾は80才で投げたぞと言う意思表示だけのつもり、ご勘弁を！！

### 7月HLG記録会報告

NO	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	合計
1、	赤星 和芳	27	45	32	45	45	45	09	07	33	45	225	58	283
2、	斉藤 浩	45	45	38	45	45	45					225	56	281
3、	中禮 一彦	22	45	45	45	27	45	45				225	25	250
4、	井村 真三	41	25	24	45	45	45	45	31	36	38	216		

5、池田 昇	42	26	21	38	31	29	33	22	45	44	202
6、森口健太郎	45	38	36	05	28	41	25	25	25	41	201
7、宍戸 輝夫	28	37	25	45	30	34	23	19	30	45	191
8、吉岡潤一郎	21	43	28	21	22	20	45	45	24	25	186
9、岡村 貞二	25	28	24	38	38	23	17	32	22	31	161
10 相沢 泰男	05	06	18	37	31	31	38	23	14	17	161
11 大八木重信	45	27	28	21	17	28	21	04	16	21	149
12 大島 廣	20	28	26	45	45	19	12				138
13 星野 聡	36	22	12	11	14	19	12	37	16	10	130
14 今関 健一	31	18	18	15	16	19	21	33	23	23	108
15 久保 晃英	16	18	08	23	21	20	17	09			97
16 平尾 寿康	06	14	15								35

### PLG7月記録会記録

猛暑の中でランチャーズ7月記録会を行いました。気温が 35 度を超える猛暑の予報で、気象庁では命に危険が及ぶ暑さが続き、最大限の熱中症対策の必要があると注意を呼び掛けていました。9 時前の練習中に、原選手、八木(博)選手、八木(喜)選手の機体がサーマルに乗り、上空視界没となることなどもあり、MAXを何秒にするか考慮した結果、猛暑の中の 10 投はやりたくないの、5投5集計として開始しました。風もなく気温も高いので、PLGの各選手の実力からすると 45 秒は軽くクリアできるものと考えていましたが、予想に反して下降気流が頻発して 45 秒をクリアできない選手が続出しました。その中で、吉本選手と三辺選手が2投2MAXと好調な滑り出し。続いて原選手が2投目・3投目でMAXを記録、八木(博)選手は3投目・4投目にMAXを記録して追いかける展開です。6月優勝の木下選手は不調で、20 秒台から 30 秒台のNO-MAXで脱落。八木(喜)選手は練習中の機体ロストがひびきNO-MAX。工藤もMAXが出ず苦戦。結果は、八木(博)選手は2MAXながら5投目に失投して 167 秒で 5 位、吉本選手も2MAX後の後半MAXが出ず、4投目に失投して 195 秒で 4 位、工藤は5投目にMAXを記録するのみで 198 秒で 3 位、原選手も気流に恵まれず2MAXで 199 秒の2位。優勝は安定した飛行で4MAXを記録し 214 秒で三辺選手が今年の 7 月以来 1 年ぶりの優勝となりました。前回優勝も 7 月の暑さの中での優勝で、1 年ぶりの優勝となりました。返りの車の車外温度は 36 ° となっていました。例年にない暑さで飛行機どころではないような気がします。皆さん、練習中での熱中症に気をつけましょう。工藤

### PLG記録 7月 15 日(日) 武蔵野中央公園 晴れ 風1m 45 秒MAX5投5集計

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	合計
1	三辺 雄司	45	45	34	45	45	214
2	原 一博	44	45	45	31	34	199
3	工藤 陽久	41	33	36	43	45	198
4	吉本 凌一	45	45	40	25	40	195
5	八木 博典	22	41	45	45	14	167
6	八木 喜久江	25	35	36	29	39	164
7	木下 龍三	26	39	39	32	22	158
8	勝山 彊	45	27	34	24	12	142
9	岡田 光正	17	23	17	11	25	93

## ◆2018年8月記録会報告(HLG/PLG)

### 8月HLG記録会報告

③…………平尾

常夏のランチャーズ記録会、しかも機体限定のちびた号大会で大勢の選手が集まりました。真夏ですが、この日は涼しいので比較的過ごしよく存分に楽しめたものと思います。毎年恒例のちびた号大会は、飛行場の狭さから出そうで出ない40秒マックス記録設定にて行われます。そして副賞として、ちびた号設計者の田中さんから図書券が貰えるのが人気です。各選手とも出だし悪くどうなるかと思ってましたが、斉藤浩選手が4マックスと頑張って優勝、2位に1マックスの井村選手、3位は池田選手といずれも肩のイイ選手が取りました。ちびた大会で何時も狙ってくる菅野選手は1秒及ばず4位でした。この日はサーマルが難しかったのか、150秒以上の記録は18名中7名少なめでした。この日珍しく宮辺選手が顔を見せてくれました。その他では、地元グリーンパークの選手が多数参加してくれて感謝です。競技会はやはり大勢でやるのが楽しいですね。

HLG記録 8月19日(日) グリーンパーク、曇天、風 1m 40秒MAX 5/10 投

NO	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	F1	合計
1、	斉藤 浩	33	27	40	10	34	40	40	09	20	40		194
2、	井村 真三	24	23	35	23	17	20	37	10	40	33		169
3、	池田 昇	28	19	21	12	29	30	29	23	34	40		162
4、	菅野 俊行	27	28	20	25	18	19	40	26	40	20		161
5、	宍戸 輝夫	34	23	23	37	27	17	26	06	24	17		158
6、	小林 茂夫	29	22	25	16	27	21	30	17	36	32		154
7、	石井 満	20	33	20	18	20	35	15	27	21	34		150
8、	中禮 一彦	20	16	24	34	23	31	21	36	17	20		148
9、	相沢 泰男	11	40	36	26	09	27	09	07	01	17		146
10、	田中 晋	05	33	28	24	10	30	21	26	20	19		141
11、	安倍 雅幸	31	09	35	24	21	23	22	19	31	21		135
12、	宮辺 康治	27	19	20	13	23	25	09	25	13	17		120
13、	今関 健一	05	16	21	24	14	28	04	13	24	0		113
14、	岡村 貞二	15	17	12	13	12	19	23	13	19	13		93
15、	斉藤 勝夫	15	17	17	19	19	16	07	06	16	08		88
15、	星野 聡	13	01	17	23	10	04	14	21	01	01		88
17、	大八木秀信	07	19	19	09	01	10						64
18、	平尾 寿康	06	08										14

### PLG8月記録会記録

連日の猛暑が少し和らぎ、気温も 25℃～26℃と記録会日和の中、CHIBITA-GO大会を行いました。ランチャーズで唯一のワンメイクの記録会で、各選手は、過去に製作した機体を引っ張りだしては調整をし、今回参加したのではないのでしょうか。

毎年、武蔵野中央公園の多くのフライヤーに参加していただき、今年は15名の参加者となり、ランチャーズのみでは味わえない賑やかに記録会を行うことができました。PLGのCHIBITA-GOは毎年のように7～8人のフライオフ進出者が出ているので、今年は45秒MAX・10 - 5で行うこととしました。練習中から時折サーマルが出ているので、45秒MAXとしても多くのフライオフ進出となるのではないかと危惧しました。前半5投で、HLGとPLGの二刀流の石井満選手が4MAXを記録。原選手、岡田選手、工藤が3MAXで続き、木下選手、吉本選手、河田選手が2MAXを記録しています。やはり多くの選手のフラ

イオフかと思われましたが、後半に入り気流に大きな変化があり、各選手の記録が大幅にダウンして、20秒台後半から30秒台後半の記録に留まるようになりました。そんな中、石井選手は残りの1MAXを軽々と記録し、フライオフ一抜けでHLGへ行きました。3MAXで続いていた原選手は9投目に5MAX記録しましたが、岡田選手と工藤は5MAX目が出ず、4MAXで撃沈。前半2MAXだった木下選手、吉本選手は10投目に5MAX目を記録しフライオフ進出。河田選手、大江選手は気流に恵まれず3MAXで残念。

武蔵野フライヤーは気難しいCHIBITA-GOに苦戦して残念ながらなかなかMAXが記録できないという状況でした。フライオフは4名の戦いで、1投勝負として実施することとしましたが、ここで原選手がフライオフ用の一番機を取り出してきました。

ほぼ同時に発航しましたが、一番機の原選手が見事な滑空性能で74秒をたたき出し優勝。2位は52秒で吉本選手、3位は44秒で木下選手、4位は43秒で二刀流石井選手という結果で、原選手は昨年9月以来、11か月ぶりの優勝でした。おめでとうございます。工藤

PLG記録 8月97日(日) 武蔵野中央公園 晴れ 風1m 45秒MAX4投+スーパーMAX70秒

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	FO	合計
1	原 一博	45	45	45	34	30	45	34	38	45	—	74	299
2	吉本 凌一	45	33	35	29	45	33	45	45	41	45	52	277
3	木下 龍三	27	32	45	45	24	45	34	45	34	45	44	269
4	石井 満	6	45	45	45	45	29	45	—	—	—	43	268
5	岡田 光正	45	45	45	35	35	45	30	27	31	42		222
6	工藤 陽久	45	45	37	35	45	37	45	35	27	33		217
7	大江 賢	38	35	28	41	45	45	19	45	19	28		214
8	河田 健	45	20	35	11	45	45	27	31	24	29		201
9	斎藤 勝夫	37	19	20	30	26	19	35	45	30	—		177
10	勝山 彊	24	23	39	33	34	38	—	—	—	—		168
11	横田 博	21	17	4	30	31	12	5	16	40	21		143
12	栗田 宗之	24	14	19	17	21	22	41	22	23	24		134
12	松岡 恒夫	17	31	16	31	19	13	23	27	22	18		134
14	林 修治	17	22	25	22	17	20	23	26	27	27		128
15	市川 滋	25	9	10	11	45	—	—	—	—	—		100
16	間島 峰男	4	9	23	22	14	14	13	20	—	—		93

## お知らせ

### ■ 平成29年秋季大会(松茸大会)開催のご案内 (参考) ⑥

開催日時 平成30年9月30日(日)受付7時30分～、ミーティング8時15分～、競技8時45分～11時45分、フライオフ12時、(但し競技進行状況によって変更する場合があります)

場 所 三重県鈴鹿市池田町タンボ

種 目 ①中型混合級(国内級、ミニ国際級のグライダー・ゴム動力機・エンジン機+電動機)  
※電動機:F1Sモーターラン10秒、F1Qモーターラン7秒

②小型混合級(スパン30インチ以下、ゴム10g以下ならどんなゴム動力機でもOK)

③HLG級(A・B)

競技方法 ・中型混合級は2分マックス、5R制

・小型混合級は、1分MAX、1R最大3回まで飛行可能。1分をクリアした選手は2分

参加費	MAXの2Rに進む。2Rは2回まで飛行が可能。2分をクリアした人はFOへ ・HLG級は1分MAX10ラウンドの上位タイム5R制
その他	・3000円、中学生以下は無料、・2種目エントリーしても参加費は不変、但し、ダブル入賞のとき副賞は上位成績の種目のみとする。
実行委員	・第三者に被害を与えた場合、競技者本人の責任で対処。・気象条件等により、R数、MAXタイムを変更の場合がある。・火縄を使う場合、落下防止装置は必須、不備の場合は失格とする。・その他、不明な点ば、実行委員にお尋ねください。 ・中型混合級 吉川強、佐藤宏彦、吉田潤、・小型混合級 小黒雅元、鈴木勝 ・HLG級 掛山吉行

## ■ 平成 30 年度模型航空FF秋の小型機旭大会 (参考)

主催	FF委員会 大会委員長FFト委員会長 和田光信 競技役員 FF委員
期日	平成 30 年11月 2 日(金)、雨天の場合は中止
会場	千葉県旭市(日本選手権開催場所通称干潟)
種目	ライトプレーン、電動FF、HLG-A、HLG-B、F1G、F1H、F1J、ツバメ号。 ただし、種目の参加者が3名に満たない場合は混合。
参加資格	当日有効の模型飛行士登録者(ツバメ号は不要)
申込方法	11月 2 日(金)競技会場(肥料小屋前) 7:00 ~ 7:40 受付
参加費	2,000 円(1 種目、2種目以上は 3,000 円)、中学生以下無料
規定・競技	FAIスポーツ規定に準拠、各種目ラウンド制 5 ラウンド競技を行い合計タイムで順位を決定。同タイムの場合は決勝飛行。電動機はF1Qモーターラン7秒F1S 10秒とし、最大計測時間は2分。状況によりラウンドの最大計測時間、モーターランを変更する事がある。HLG-Aは最大計測時間90秒(HLG-Bは60秒の飛行を1ラウンドに2回行い、飛行時間の長い方をそのRの公式飛行とする。LPについては、最大計測時間は1分。LPに関する特別規則:FF国内級規定15に基づき特別規則を付加。①動力ゴムの重量5g以下、②空転ペラ使用。状況によりラウンド最大計測時間モーターランを変更する。
開会式・競技時間	7時40分/開会式。8時00分/R制による競技開始。13時30分決勝開始予定。ラウンドの時間等の詳細については競技会当日に発表する。

## ■ 平成 30 年度模型航空FF国際級日本選手権大会要綱 (参考)

・主催	日本模型航空連盟
・期日	平成 30 年11月2、3、4日 会場 千葉県旭市たんぼ
・大会委員	日本模型航空連盟会長・安田 邦男 競技委員長FF委員長・和田 光信
・競技役員	日本模型航空連盟FF委員会 事務局 田久保 潤一
・競技種目	フリーフライトF1A、F1B、F1C 競技規定 FAIスポーツ 2018 年規定に準拠
・参加資格	平成 30 年(2018 年)3 月 25 日まで有効の模型飛行士登録者
・競技方法	5 ラウンド競技であるが、気象等の状況により競技を短縮または中止することがある。
・参加費	22,000 円(1種目)、受理後は本計画中止以外は返還しない。
・参加申込	郵便局で振替用紙を入手し通信欄に種目、JPNナンバー、住所、名前、電話番号を記入の上申し込むこと。 振替口座 0160-6-59119 加入者名 日本模型航空連盟
・申込締切	平成 30 年(2018 年) 2 月 28 日(水)当日消印有効

- ・申込受理 確実に申込を行った選手には申込受理書と機体仕様書を送る。  
機体仕様書に必要事項を記入の上、競技前に大会受付へ提出のこと。
- ・宿 泊 斡旋する宿舎 いいおか潮騒ホテル 宿泊を希望する選手は事務局 田久保まで  
早めに電話又はメールで申し込む(一泊 8,700 円)宿泊料は当日朝集金
- ・集合場所 AM6:30 肥料小屋前に集合、
- ・競技開始時刻 3月26日 07:30
- ・その他
  1. 選手は計時員の補助として計時を行い、競技運営に協力して下さい。
  2. 競技当日の食事は各自で用意すること。
  3. 問い合わせは各団体のFF委員、事務局、副委員長へ

## ★ 雑談天国

### 皇室あれこれ

ウィキペディア他、平尾

今上天皇が来年退位するにあたり、皇室について考えて見る事にした。現在の日本国憲法では、「天皇」は日本国および日本国民の象徴だとされています。つまり「天皇＝日本のシンボル」という事になり、これを憲法や法律でハッキリと定める事が天皇制の基本だと言えるでしょう。また、天皇になれるのは皇族だと決められています。ただし、「天皇制」と一言で行っても、天皇の立ち位置は日本の歴史の中で何度も変化してきました。祭祀のトップや軍人のトップとしての側面が強かった時代もあれば、摂政や関白、幕府といった時の政権に正当性を与える役割を担った時代もありました。また、明治時代に定められた大日本帝国憲法では天皇は元首と定められており、軍の指揮権や統治権を持つなど強い権力を持っていました。しかし、大戦後「日本国および日本国民の象徴」という性格へと変化してきたのです。

「天皇制」という表現への批判として思想上の理由から、天皇制という語を忌避して「皇室」という表現もよく用いられ、中にはあえて「国体」と表現するケースもみられる。そして「その由来だけでも使うべきではないが、より本質的に言うと天皇は「制度」として存在しているわけではないから使うべきではない」との批判もあります。また、戦前の論評では「日本の失敗を天皇のせいだと非難はしても、日本の成功に関して天皇を褒めることはしなかったのが戦後の歴史家たちであるが、これと異なり明治知識人たちは日本の進歩の功を天皇に帰しはしても、その短所を天皇のせいにはしなかった」という指摘が、明治時代と戦後の天皇制に関する論評の違いだとしている。

また、天皇制と言えば王制との違いも気になりますが、まず、国際政治上はこの2の間に差異はなく、天皇制はあくまで立憲君主制の1つであると考えられています。これは、元首である天皇(あるいは王)の役割はあくまでその国の象徴であり、実際の政治は法律に従って政治家や内閣が行うという決まりになっている政治体制だからです。立憲君主制を採用している国は、日本以外にもイギリス、オランダ他と言った国々があるため、この点から考えると天皇制と王制の間には違いはないという事になります。天皇制と王制の違いを敢えて言うのであれば、日本の皇室は世界最古の王族という点が挙がる事になるでしょう。世界の皇室や王族の中には、長い歴史の中で滅ぼされたり跡継ぎが産まれない等の理由で血筋が絶えた所が沢山あります。その一方、日本の皇室は、神話上は紀元前 660 年頃から、資料により確認できる 4 世紀頃から絶えることなく続いている世界最長の家系です。天皇制と王制の違いをあえて挙げるのであれば、血筋が絶えていないというのでしょうか。

#### 1. 天皇制の維持費ってどれ位なののでしょうか？

2016 年 12 月現在、皇室の方は 18 名いらっしゃいますが、こうした方々の生活費は税金から賄われています。天皇制を維持するための費用は「皇室費用」と呼ばれており、この費用は皇室経済法第 3 条によって内廷費、宮廷費、そして皇族費の三つに分類されています。内廷費とは、天皇陛下、皇后陛下、皇太子、皇太孫の生活のための資金で、2016 年度は 3 億 2400 万円となっています。この内廷費は御手元金、つまり皇室の方々のお金として使われる事となっています。2 つ目の宮廷費とは、皇族の

公的な活動に必要な経費です。儀式や外国ご訪問、国賓などの接遇に使用され、内廷費とは異なり宮内庁が管理する事となっています。2016年度には55億円ほどが計上されています。そして最後の皇室費ですが、これは皇族の品位を保つために支給されるお金の事で、秋篠宮家や常陸宮家、三笠宮家の方々が受け取られている費用です。お一人当たり3000万円程が支給される事になっており、2016年度は3億円弱が支出されています。また、皇族の方がその身分を離れる際の餞別みたいなものとして支出されるケースもあります。こうした3つの費用の他にも、宮内庁の職員の方のために「宮内庁費」と呼ばれる費用が2016年度には100億円ほど計上されています。つまり、天皇制の維持費の総額は大体170億円ほどであることが分かります。しかしながら、皇族が実際の生活に必要な費用は170億円内の6億2400万円程度であり、多いとは言えないでしょう。且つ、この費用を国民1人当たりで割れば一人5円程度となり、これで皇室の祈りの奉仕を受けられるのであるから、評価すべきでしょう。

## 2. 皇室の出自

弥生時代の邪馬台国の卑弥呼の系統を皇室の祖先とする説、皇室祖先の王朝は4世紀に成立したとする説などの多くの説が提出されており定まっていません。7世紀後半から中国の政治体制に倣った律令制の導入が進められ、701年の大宝律令によって律令制が確立した。国号(日本)と元号(大宝)が正式に定められ、歴代天皇に漢風諡号が一括撰進されました。そして天皇を中心とした中央集権制が確立し、親政が行われました。710年には平城京ができ、9世紀ごろから貴族層が実質的な政治意思決定権を次第に掌握するようになりました。10世紀には貴族層の中でも天皇と強い姻戚関係を結んだ藤原氏が政治の中心を占める摂関政治が成立しました。11世紀末になると上皇が実質的な君主(治天の君)として君臨し院政が始まりました。天皇位にある間は制約が多かったものの、上皇となると自由な立場になり実権を得ました。

昭和50年、衆議院・内閣委員会において、政府委員の角田内閣法制局第一部長は、旧憲法下の天皇と現在の憲法のもとにおける天皇の権能・地位は非常な違いがあると認め、一番目は、現憲法のもとにおける天皇は、第一条に明記されているがごとく、日本国の象徴であり非政治的な地位に在ることだと思つてゐる。第二に、現在の(=現憲法下の)天皇は第一条に明記されているがごとく、その地位が、主権の存する日本国民の総意に基づくことだと思つてゐる、と述べている。

## 3. 象徴天皇

日本国憲法公布・施行前の昭和21年の毎日新聞朝刊に結果が載つた世論調査では、「象徴天皇制」への支持が85%であつた。その後、メディア各社が行つた世論調査の推移を見ると、平成2年では「今の象徴天皇のままでよい」を回答に選んだ人の割合は73%だつたとされ、平成12年には象徴天皇を支持したのが8割とされ、平成14年には「今と同じ象徴でよい」を回答に選んだ人が86%だつたとされる。NHKが平成21年に行つた世論調査では、「天皇は現在と同じく象徴でよい」が82%、「天皇制は廃止する」が8%、「天皇に政治的権限を与える」が6%となっている。

天皇は元首なのか？ そうでないのか？ といった問いに対して1988年参議院内閣委員会、大出内閣法制局第一部長は、『現行憲法においては元首とは何かを定めてはおらず、元首の概念は学問上・法学上いろいろな考え方があるようなので、天皇が元首かどうかは、要は定義次第であると考えている。

“元首”の定義として、外交のすべてを通じて国を代表し、且つ、行政権を把握しているとする定義を採用するならば、現行憲法においては天皇は元首ではないということになると思う。しかし、現代には「実質的な国家統治の大権を持っていないくても、国家においていわゆるヘッド(頭)の地位にある者を“元首”と見る」とする見解もあり、天皇は国の象徴であり外交関係では国を代表する面も持っている。その場合は「元首」と言つてもさしつかえないと考えている。『憲法7条9号の「外国の大使および公使を接受すること」というのは、国事行為として、日本に駐在する外国の大使・公使を接受するのであるから、形式的・儀礼的ではあるが、天皇が国を代表する面を有している。それに対して、全権委任状あるいは日本の大使・公使の信任状を發出するのはもともと内閣の権限に属することであり、天皇はあくまでこれを認証するだけである。また批准書、その他の外交文書の作成も、内閣の権限に属することであり、

天皇はこれを認証するだけである。そういう意味において、外交関係において国を代表する面を有しているとは言いにくいのではないかと理解している

#### 4. 転機迎える象徴天皇制 国民との共同作業は続く。毎日新聞 2017年

天皇陛下の退位を実現する皇室典範特例法が成立した。最後の退位は200年前にさかのぼるので、天皇制の転換点といえよう。1年半後にも平成に次ぐ新たな時代の幕が開く。陛下が皇太子のときに読まれた本に福沢諭吉の「帝室論」がある。教育担当の小泉信三・元慶応義塾長が共に音読したと明かしている。明治憲法制定前に記された論説集は皇室を政争の外に置き「日本民心融和の中心」と位置付けた。国民の中の天皇という「先見」に着目した小泉氏が世継ぎ教育の教本にした。天皇の地位は明治の「統治権の総攬者」から敗戦を経て「日本国民統合の象徴」となった。国民主権における天皇の役割と。その在り方を陛下は早くから意識していた。昨年8月のおことばで「常に国民と共にある自覚」を持つことが「象徴」の役割を果たす心構えになるとした。陛下の真摯(しんし)な姿勢がにじんでいる。

終戦直後、天皇の戦争責任に絡めた退位論があった。その後、皇室典範を巡っても議論されたが、歴史的な政争の教訓から恣意的、強制的退位を避けるために見送られ、終身在位制は維持された。

来年の退位は憲政史上初となり、天皇制は新段階に入る。特例法の成立は退席した自由党を除く全会一致だった。公務に真剣に取り組んだ陛下への共感が、国会の総意を生み出したといえるだろう。

陛下は、阪神や東日本の大震災など大災害時には、現地を訪れ被災者の手を握りひざを接して励ました。戦争の深い傷にも思いを向け、パラオをはじめ戦跡慰霊の旅を続けた。高齢化が進む社会情勢の変化もある。平均寿命が80歳を超える長寿社会での多様な生き方は、終身在位制との両立を難しくしていた。陛下はおことばで体力の衰えからの「制約」に触れ、「全身全霊をもって象徴の務めを果たしていくことが難しくなるのではないか」という不安を率直に認めた。生身の人間であれば高齢に伴い一線を退くことがある。象徴の役割を懸命に果たそうとすれば、やがて肉体的に限界を迎えるのは自然なことだ。これはもともと象徴天皇制に内在していた問題であった。

国民にとって天皇とは何か。この1年近い議論は当たり前のように社会に根付いた象徴天皇制の現実を直視し、陛下と国民が認識を共有する作業だったといえよう。「象徴」の姿が、ときの天皇の個性や社会情勢に応じて変化するのは当然だろう。この間、天皇観の違いも鮮明になった。政府の有識者会議では「宮中で祈ってくだされば十分だ」という意見があった。退位は自然とする多くの国民と、抵抗する保守強硬派との溝は大きい。退位の問題は皇位の安定継承と不可分だ。退位が実現すれば皇太子が不在となり、子世代の継承者は秋篠宮夫妻の長男悠仁(ひさひと)さまお一人となる。そのため国会は安定的な皇位継承や皇族減少対策の検討を政府に求めると決議した。その結果として女性宮家創設は具体的な対策として早急に検討すべきだろう。男女平等などの時代的背景や安定的な皇位継承という点で現実的な対応だと賛同する意見は多い。今後は、元号の制定、退位や即位に伴う儀式の準備が始まる。首相官邸と宮内庁が円滑な皇位継承に万全を期してほしい。

#### 5. 天皇家の教育

ヨーロッパではイギリス、オランダ、スペイン、デンマーク、スウェーデン、ノールウェー他王室のある国は意外と多く、各国の教育機関は推薦入学を認めるのが普通である。そしてこれを外交の手段として使っていて、特にイギリスは日本との関係が深く多くの皇族が利用している。日本もようやく「3年後の平成28年度から、東大にも各科類合わせて100名程度の推薦枠ができる。推薦枠ができることで、愛子さまの東大進学の可能性はぐっと広がったと思います」。それを意識してのことなのか、最近の皇太子ご夫妻による英才教育は、かなり徹底している。

「特に、雅子妃が熱心です。たとえば一日一度、1～2時間、英語だけで愛子さまと会話する時間を設けています。愛子さまはすでに初歩的な挨拶や自己紹介、会話はできますし、会話中に雅子妃が知らない単語を使うと、『その単語は知りません』と英語でお応えになるそうです。また、毎年夏には英語のサマースクールにも通われるほどの力の入れようです。一方、皇太子さまはもっぱら文系科目が担当で、日本史・世界史・国語・社会をみておられるとか。日本史は、歴史上の人物を、声音を駆使して演じ

てみせたり、時代背景や社会情勢を物語仕立てにして臨場感たっぷりに教えているそうです。ほかにも、一般でいうところの家庭教師役の女官がいる他、造形専門の先生や書道の先生もつき、多角的でバランスのいい教育を受けています」(別の宮内庁担当記者)。

私はこれまでの経験から子供の才能は母親の受け継ぐと考えているので、愛子様は優秀なお子様だと信じている。こうした環境の中、愛子内親王は自分から進んで机に向かい、楽しんで勉強に励んでいるという。だが、国民の多くも知るところだが、ここにたどり着くまでには幾多の苦労もあった。「愛子さまは2～3年生の頃、同学年に乱暴な男子生徒がいて、おびえてしまい不登校気味になられた。当時は机に向かう心の余裕もなかったため、成績は中の上程度だったのです。しかし、立ち直って以降、もともと勉強好きなこともあり、成績がメキメキと向上。そして、そんな愛子さまの成長を見て、雅子妃の体調もまた、よくなってきています。雅子妃は、ご自身がハーバード大から東大というコースを歩まれたので、まず海外に留学させ、それから東大という選択肢もお考えのようです」。体調の回復にともなって、このところ雅子妃の姿を公の場で目にすることが多くなっている。8月は宮城県、9月には福島県の被災地を訪れ、その後には国際青年育成交流事業の記念式典や障害者スポーツ大会開会式に出席した。学習院初等科の運動会は、この障害者スポーツ大会開会式が終わった後に見に来ている。あの雅子妃が、家族の行事よりも公務を優先した。「自覚が芽生えていらっしやっ」と、宮内庁職員たちは心が晴れる思いだったという。

## 6. 美智子皇后の和歌

東日本大震災のときに皇后美智子さまがうたわれた和歌をご紹介します。平成23年3月の東日本大震災の津波によって、両親と妹を亡くした四歳の幼な児が、「ママへ。いきてるといいね。おげんきですか」と手紙を書きながら、疲れて寝入ってしまいました。新聞でその写真をご覧になり、心打たれて詠まれた御歌です。「項傾し(うなかぶし)」は「うなだれて」をあらわすことばです。

「生きてるといいねママお元気ですか」 文に項傾し幼な児眠る

私は、何のてらいもなくシンプルに読まれたこの和歌を見て、美智子皇后の和歌に注目するようになりました。その他ブログには、岩波新書の新刊で、永田和宏『現代秀歌』という短歌の本が出ました。

これは百年後まで残したい戦後の秀歌百首のアンソロジーだそうです。その中に、和歌の家元ともいえる皇室から唯一選ばれたのが美智子皇后である。岡井隆、寺山修司、俵万智らとともに、代表的歌人として認定されているのだ。

① かねてルアンダの青少年道場で指導に当たっているオディマーク・デュクロ氏が、一昨15日、弊(アンゴラ・プレス)において講演を行い、このほどパリで出版された日本国皇后の歌集『セオト』を絶賛して、こう述べた。ここに生き活きと仏訳されたワカ(和歌)は、日本語でコトダマ(言霊)と呼ばれる崇高な精神を宿している。御歌は、ヨーロッパのみならず、アンゴラをはじめ、アフリカ中に伝えて、とくに青少年の情操教育に役立てるべきと信ずる――と。たとえば、デュクロ氏は講演の中で、

窓開けつつ聞きあるニュース南アなる アパルトヘイト法 廃されしとぞ

の御歌を紹介して、こう語っている。皇后陛下という高い御身分の方から、御自分の国と国民だけでどんなに大変か分からないほどですのに、南アフリカ連邦共和国のアパルトヘイト法が廃されたことで、こんなにも喜んでくださっているのです。自由と平和がいつまでも続くようにと祈ってくださる、何というお心の寛さ、魂の偉大さかと、感激させられるほかはありませんでした。満堂の聴衆は、遠い日本の皇后様がなぜこんなにも自分たちの世界のことを考えてくださるのか、と驚喜した。

① 年の始めに、いつも楽しみにしていることがある。正月に皇居で行われる歌会始で、皇后美智子さまが、今年はどうな御歌をお詠みになっているのだろうかという期待だ。歌会始めには、一般国民も短歌を詠進することができる。多い年には2万5000人を超える国民が、前年に宮内庁から発表される「お題」を詠み込んだ歌を寄せる。これまでも「星」「町」「歩み」など、お題はシンプルなものが多い。平成29年は「野」だった。

土筆摘み 野蒜を引きて さながらに 野にあるごとく ここに住み来し

これが皇后さまの御歌だ。日本文学の泰斗ドナルド・キーン氏は「皇后さまは、万葉以来の最高の歌人のおひとりですよ」と語っているとされる。ちなみにキーン氏は、10月の皇后さまのお誕生祝いの会に招かれ、参加者を代表して祝辞を述べ乾杯の音頭をとられたそうだ。東京の真ん中であってなお自然豊かな皇居を野になぞらえ、昭和 34 年の御成婚以来の日々を振り返るこの短歌、いや、あえて和歌と言いたいが、この和歌は技巧の面でも秀逸だと、ずぶの素人の我が身を顧みず思う。「つ」「の」「に」「こ」といった音が小気味よく繰り返されてリズムを作っている。皇后さまの和歌は、普通ならば耳に引っかかるような音の繰り返しを、逆に心地よさに変えてしまう。

昭和 52 年の歌会始のお題は「海」だった。

岬みな 海照らさむと 点るとき 弓なして明る この国ならむ

岬に立つ灯台が、日暮れの早い地方からひとつ、またひとつと点灯して行って、この国にある灯台のすべてが夜の海を照らしたとき、長く伸びる日本列島は、もし空から見たら弓形の明かりを成しているだろう。ひとつところへの視点から、一気に列島全体を見渡す、なんと雄大な視野の広げかただろう。

「弓なして明る」の字余りが、その広がりにかかる時間を意識に刻む。また、長年、戦没船員の追悼を続けてこられた両陛下の思いも、この歌には込められているような気がする。(以上ブログより)

## 7. イギリス女性王族の活躍

現在、英国王室には女王をのぞいて 23 人の王族がいる。このうち未成年者は 4 名いるので、女王自身も含めて 20 人でなんと 3000 以上に及ぶ各種団体のパトロンを務め、年間 3000 件以上の公務も分担しているのだ。2011 年にウィリアム王子と結婚されたキャサリン妃も、「ウィンブルドン選手権」で有名な全英テニス協会の総裁など、すでにいくつもの団体の長を務めている。また、夫のウィリアム王子や義弟ハリー王子も、祖父母や父チャールズ皇太子、亡き母ダイアナ妃から引き継いだ団体に加え、自ら立ち上げた新たな慈善団体の活動にも積極的に取り組む。こうしたなかで英国王室にとって大切な存在となっているのが、女性王族なのである。キャサリン妃のように王子に嫁いで王族となった方々も大切だが、元々王族として生まれ育った女性たちも、英国王室では結婚後も重要な役割を果たしている。

たとえばエリザベス女王の長女であるアン王女。現在 66 歳の彼女は、英国オリンピック協会の総裁をはじめ 320 以上もの団体のパトロンであり、年間の公務も 600 件を超える。いまでは兄チャールズ皇太子に次いで、英国王室で 2 番目に忙しい王族である。その彼女も昨年秋には珍しく体調を壊し、アフリカ南部への訪問を弟のヨーク公爵アンドリュー王子に託した。それも仕方あるまい。アン王女は、その直前までリオのオリンピック、パラリンピックに出席し、さらに彼女自身が英国王室との交流再開にひと役買ったロシアまで訪れていたのである。文字通り、世界中を飛び回っての大活躍なのだ。さらに忘れてならない女性王族がアレキサンドラ王女。彼女は女王のいとこ(父ジョージ 6 世の弟ケント公爵の長女)にあたる。王女もまた、結婚後も引き続き王族にとどまり、女王の名代として世界各地を回った。1961 年に、戦後初めて英国王族として来日され、太平洋戦争で敵味方に分かれて以来の両国の戦後和解の第一歩を築いたのも、彼女なのである。そのアレキサンドラ王女も昨年 12 月には満 80 歳を迎えられた。王女に篤い信頼を置いているエリザベス女王は、王女がパトロンを務める 110 の団体の代表たちとともに、バッキンガム宮殿で王女の「傘寿」をお祝いする特別の会合まで開いている。アン王女もアレキサンドラ王女も、ともに「一代限り」の王族であり、彼女たちの夫も子供たちも、精確には「王族」ではない。それゆえ王室に関わる公務を担うこともない。しかしこの二人の王女の活躍ぶりは、上に記したほんの一部の活動だけ読まれても、王室にとって、さらに英国全体にとって極めて重要なものであることが理解いただけたらう。

## 8. 日本の女性皇族のゆくえ

天皇陛下の退位に関する特例法が今国会で成立する見通しとなっているが、問題は「その後」である。「上皇」「上皇后」となれるであろう天皇皇后両陛下が、現在のご公務の多くから退かれたとき、それを引き継がれるのは誰なのか？ 国事行為については、当然、新天皇が担われるであろうが、それ以外の様々な行事や各種団体の総裁などはどうするのか？ 現在、日本の皇室には天皇陛下をのぞき 18

人の皇族がおいでになり、このうち未成年の皇族(愛子さま・悠仁さま)をのぞくと、16人の方々が膨大な公務を担っておられる。数の上では英国の王族とそれほど変わりはないように見える。しかし、両者の最大の違いは、日本には英国にない女性皇族の「臣籍降下」の制度があることだろう。日本では、もともと皇族に生まれ育った方が皇族以外の方と結婚された場合には、皇族の身分から離れることになっている(皇室典範第12条)。そして現在、14人いらっしゃる女性皇族のうち、7人は未婚の方々であり、結婚された場合には、皇室を離れてしまわれるのは遠い未来のことではない。

天皇に側室が居たのは明治天皇までで、大正天皇からは一般庶民と同じく一夫一婦制を守られていらっしゃるの、お子様の数が限られて減少中である。大正天皇の男子は4名、昭和天皇は男子2名、今上天皇は男子2名、現皇太子様には女子1名のみ、秋篠宮様には男子1名と女子2名と、辛うじて次期皇太子候補を確保しているが、子孫減少が顕著である。

2017年5月16日の夕刻、秋篠宮家の眞子さまが一般の方との婚約に踏み切られるとの第一報が日本列島を駆けめぐった。大変におめでたい話ではあるが、眞子さま(1991年生まれ)は現在25歳。

皇室でのご公務もようやく緒に就いてこられたばかりである。すでに日本テニス協会や日本伝統工芸会の総裁職にあられるが、今後はさらに多くの要職に就かれるはずであった。しかも、他の未婚の6名の女性皇族のうち実に4名が眞子さまより年上であらせられる。眞子さまが臣籍降下されてからのち、ご公務を担われる女性皇族が減少するのは、現況では火を見るよりも明らかである。「女性宮家」という名称に難色を示す向きも見られる昨今であるが、女性皇族を一代に限り残し、ご公務を引き続き担っていただくのは喫緊の課題である。しかもそれは糊塗策に過ぎない。皇室自体の安定的な存続についても本格的に考えていく時期にすでにきているのではないだろうか。

## ★ ざつがき

① 戦勝100周年 第1次大戦後「人種差別撤廃」を訴えた日本…「五大国」の地位を獲得し「白人優越」打ち崩した歴史的な働き 【知られざる第一次世界大戦の偉業】 夕刊フジ

フランス革命記念日(7月14日)恒例の軍事パレードに、陸上自衛官が参加した。日章旗(国旗)と旭日旗(自衛隊旗)を掲げて、シャンゼリゼ通りを威風堂々で行進する姿は、勇壮であり実に感動的だった。今回の自衛隊参加を、「日仏友好160年を記念して」と報じたメディアもある。江戸幕府が1858年、米国と英国、フランス、オランダ、ロシアと結んだ「安政五カ国条約」や、フランスとの「日仏修好通商条約」(同年)を起点にする話だろうが、どうもしっくりこない。私は思う。フランスが自衛隊を招待したのは、今年が日本も参戦して勝利した第一次世界大戦終結(1918年)から100年目だからだと。というのも、自衛隊が初めてこのパレードに参加したのは4年前の2014年、この年は、第一次世界大戦開戦(1914年)から100周年だったからである。そう、日本は第一次世界大戦で、英国やフランス、米国など連合国側に立って戦った“戦勝国”なのである。日本の活躍が、連合軍の勝利に大きく寄与したのだ。

ところが、日本では、学校の歴史授業でも第一次世界大戦は、ほとんど教わることがない。せいぜい、ドイツ軍と中国大陸の青島で戦った攻略戦と、大戦中に起きたロシア革命に、連合国とともに干渉したシベリア出兵ぐらいではないか。日本は、日英同盟に基づいて参戦し、ドイツと青島など各地で戦った。

4850人が散華されて、靖国神社に合祀(ごうし)されている。忘れてならないのは、この戦争を経て日本が、英国やフランス、米国、イタリアと肩を並べる「五大国」の地位を獲得し、それまでの「白人優越の世界」を打ち崩したことだ。これは世界史上、最も重要な出来事の1つだった。この時、世界のリーダーとなった日本が初めて「人種差別撤廃」を世界に訴えたことをご存じだろうか。日本は、第一次世界大戦後の処理を話し合うパリ講和会議(19年)で、人種差別撤廃を提案した。その後の国際連盟設立に際し、人種差別撤廃の文言を規約前文に入れるよう求めたのだ。日本政府の懸命な働きかけで、人種差別撤廃提案に賛成する国もあった。ところが、「全会一致ではなかった」という強引な理由で、最終的に

拒否されたのだった。当時の白人主導の世界では、価値観を根底から覆すことなど受け入れられなかったのだ。現在では当たり前の人種平等の考えも、抹殺されてしまったのである。

日本は明治維新以来、西洋列強諸国に伍(ご)してゆくため、ひたむきな努力を続けた。五大国の地位を獲得した後もおごることなく、人道国家として人種平等を訴えた。それは幕末期に日本自身が味わった苦い経験と、明治維新の悲願だったのである。2018年ー今年に輝かしい「第一次世界大戦戦勝100周年」である。 ■井上和彦

## ② 「地中海の守護神」と呼ばれた日本艦隊 攻撃を受けた連合軍船舶から7千人を救助した 【知られざる第一次世界大戦の偉業】

第一次世界大戦(1914~18年)の開戦当初、ヨーロッパ大陸では塹壕戦が長期化していた。これを打開するため、連合軍から日本に対して陸軍部隊の派遣要請がきた。だが、日本政府は国益の遠く及ばぬヨーロッパ大陸への陸軍部隊の派遣を拒否し続けた。だが、日本は17年1月、同盟国・英国の強い要請で、地中海などへの艦隊派遣を決定する。任務は、ドイツ・オーストリアの潜水艦による攻撃から、連合軍の輸送船を守る船団護衛であった。こうして編成された「第1特務艦隊」は、英領シンガポールを拠点として東南アジアやインド洋の通商保護にあたった。そして、「第2特務艦隊」は最前線の地中海に派遣された。同艦隊の活躍は目覚ましかった。17年、英輸送船「トランシルバニア号」が地中海で魚雷攻撃を受けたとき、日本の駆逐艦「榊」と「松」が、捨て身の救助活動を行い、約3000人を救助した。のちに英国王ジョージ5世は、第2特務艦隊の士官7人、下士官20人に勲章を授与した。さらに驚くべきは、日本海軍の偉業と功績が英国下院で報告されるや、議場は歓呼と拍手に包まれ、日本語で「バンザイ」が唱和されたというのだ。日本艦隊は、洋上で敵潜水艦を発見するや、勇猛果敢な爆雷攻撃でこれを撃沈し、敵の雷撃で航行不能になった輸送船を、敵潜水艦と交戦しながら身を挺して護送した。あるときは、護衛する輸送船を狙う魚雷に向かって突進したという。各国海軍は、自らを犠牲にしてまで輸送船を守り抜く日本海軍の姿にいたく感銘し、畏敬の念を抱いた。

こうして日本艦隊は、輸送船など約800隻の連合軍の船舶を護送し、兵員約70万人の輸送を助けた。そして、敵潜水艦の攻撃を受けて海に投げ出された連合軍の兵士や看護婦ら約7000人を救助したのである。見事な護衛ぶりから、第二特務艦隊はいつしか「地中海の守護神」と呼ばれるようになり、護衛依頼が殺到した。17年6月11日、前述した駆逐艦「榊」が魚雷攻撃を受けて大破し、59人の戦死者を出した。この59人と、そのほかの殉職者を合わせた78人の戦没者の遺骨と遺灰は、現在もマルタ共和国の英連邦軍墓地の中にある旧日本海軍戦没者墓地に埋葬されている。この埋もれた史実を語り継いでいる、作家のC・W・ニコル氏は、第二特務艦隊の士官として地中海に赴いた片岡覚太郎中尉の著書『日本海軍地中海遠征記』(河出書房)の解説で、以下のように述べている。《地中海をはじめとした地域での日本帝国海軍の尽力は、むろん数字の上では、イギリス、フランス、イタリア、アメリカ軍その他に比べると小さいとはいえ、戦争の流れを一変させたといえるのではないかと。彼らのおかげで形勢が変わったのだ。だから彼らの物語は、日本人だれもが誇らしく思っているいい物語なのだ》

日本海軍が、連合軍勝利に大きく貢献したという輝かしい史実を、果たして、どれほどの日本人が知っているだろうか。 ■井上和彦